今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

KAWASAKI CITY

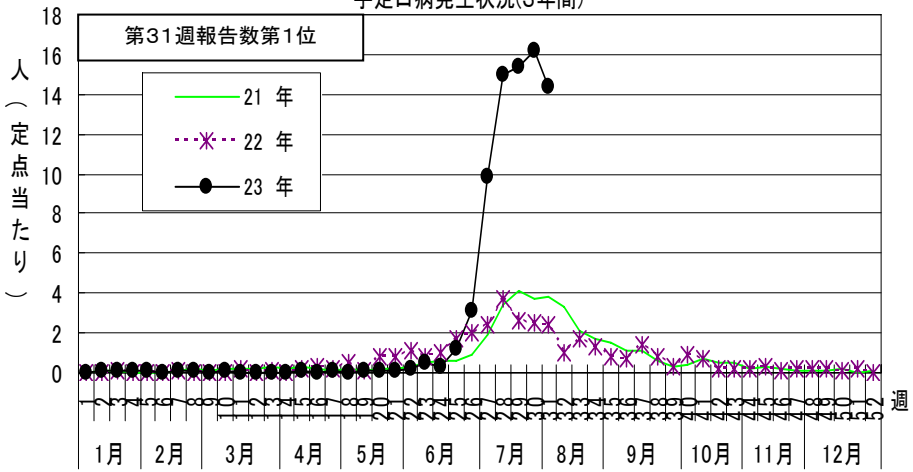
平成２３年８月１日（月）～８月７日（日）〔平成２３年第３１週〕の感染症発生状況

第３１週で定点報告数の多かった疾病は、1)手足口病　2)ヘルパンギーナ　3)感染性胃腸炎でした。

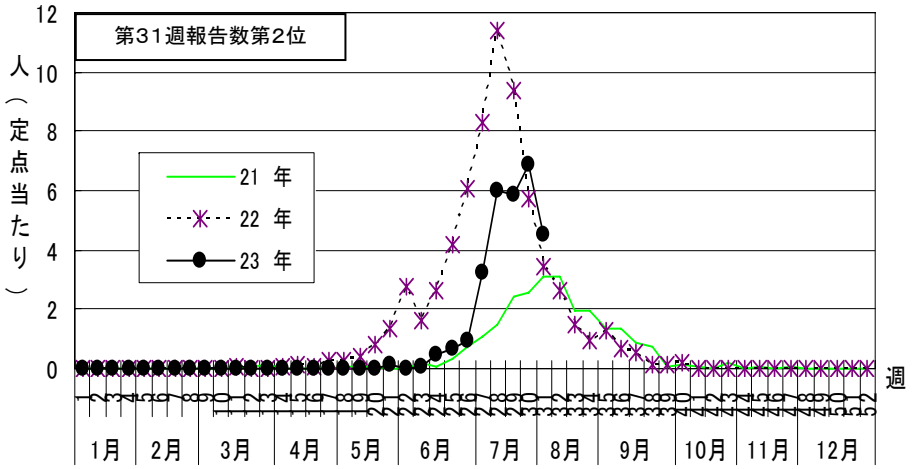
手足口病は定点当たり１４．３５人と前週（１６．４７）より患者報告数は少し減少しましたが、依然として警報基準値（定点当たり５人）を大きく上回る報告数であり、感染防止に注意する必要があります。

ヘルパンギーナは定点当たり４．４８人と前週（７．０６）より患者報告数は減少しましたが、手足口病と同様に今後の発生動向に注目する必要があります。

手足口病発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況（3年間）



特に夏は腸管出血性大腸菌感染症に注意！！

「夏休みにみんなでバーベキュー！！」:夏を楽しむイベントがこれから多く催されると思います。しかし、そんなバーベキューで感染症にかかってしまうことがあります。生の肉類には細菌等が付着していることが多いため、加熱不十分のまま食べると腸管感染症（腸管出血性大腸菌感染症など）に感染するリスクがあります。

Ｏ１５７(ｵｰｲﾁｺﾞ ﾅﾅ)

７５１Ｏ(ﾅﾅｺﾞ ｲﾁｾﾞﾛ)

７５℃　１分　で　Ｏ個

手洗いが重要です！

夏は、気温と湿度が高いため腸管出血性大腸菌（O157 など）の増殖が盛んになります。

O157 などの食中毒菌に感染しないためには、十分な手洗い・食品の衛生的な取扱い・加熱等が必要です。

細菌を死滅させるための加熱は、細菌の種類にもよって異なりますが、75℃１分が食中毒予防の一つの目安です。温度と時間が重要なので忘れないようにしましょう。覚え方を左に掲載しましたので参考にしてください。Ｏ１５７を逆さに読んで・・・「75℃１分の加熱で細菌Ｏ個」とすれば覚えやすいですね。ただし、食物の表面でなく中心部までこれらの条件で加熱する必要がありますので注意してください。

発行　川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）

（問い合わせ先）　０４４－２００－２４１２